



諫高だより

ふじ
藤
むらさき
紫

長崎県立諫早高等学校

〒854 - 0014 諫早市東小路町1番7号

TEL 0957 (22) 1222 FAX 0957 (22) 5104

http://www.isahaya-highschool.ed.jp

『感謝の言葉』

校長 石部 邦昭

「一言（ひとこと）多い言葉と・・・」

「人間一言多い言葉と一言足りない言葉でよく失敗する」。先輩から教えてもらった言葉で私の戒めとしているが、実際は相変わらずこの言葉の意味を実感させられるのが常である。あの時の一言が余計だったとか、もう一声相手を気遣う言葉がなぜあの時に出なかったのかと後で悔やむことが多い。成長しない自分を責め、心して生活しなければと思っている。ただ、私の回りの人も同じような傾向にあるようで私ばかりではないかなと変に安心もする。そういえば、マスコミ報道など見ると、いろんな人が「一言多い言葉と一言足りない言葉でつまづいている」シーンに出逢う。中には謝罪会見なのに謝罪になっていなくて更に傷口を広げているものもある。結局、「言葉は心だ」と教えられる。普段の思いがひょっと口を付いて出る。余計な一言だ。「解決策は？」との問いには、「心を磨くしかない」との結論になる。

「五つの心」

先般、幸いにして人間の心を磨く話に出会えた。諫早文化会館であった奈良薬師寺管主の安田暎胤（えいいん）氏の講演である。「なるほど」と感銘を受けたのでここで紹介したい。薬師寺の住職と言え、本校生も毎年修学旅行で講話をしていただいているので何かと縁が深い。いつも人間の心の持ちよう、生き方のヒントを説いてくれる。安田管主は人間が生きる幸せに気づくには「五つの心」が必要と話をし、実践の必要性を説いた。「五つの心」とは、「感謝の心」「思いやりの心」「敬う心」「詫（わ）びる心」「赦（ゆる）す心」を言い、この「五つの心」に気づくことが生きる幸せにつながるとした。その中で特に私が注目したのは「感謝の心」である。この世に命を授けてくれた父母への感謝、自分の回りにいる人への感謝。自分が今あるのは多くの人の支えのお陰だとわかると自然に感謝の言葉が言える。生き方としては最高のものである。



世界陸上選手激励会での挨拶(4/24)

「素直な気持ちで」

ただ感謝の言葉を口に出して言うのは思った以上に難しい。また、「わざわざ口に出して言わなくてもお互いわかっている。水くさい」とのこちらの勝手な思いが感謝の言葉をためらわせる。しかし、言わないと伝わらないことも事実である。「ありがとう」「お陰様で」。言われた方は何と嬉しいだろうか。

私の経験で言えばこの言葉を発する時の心の有り様は、次の二つが揃ったときである。一つは「素直な気持ち」、もう一つは「心に余裕がある」時である。心に余裕が無い時は感謝の言葉よりもきつい言葉、恨みや嫌みの言葉が先に出る。「一言多い言葉と一言足りない言葉」状態である。ここは自分の心を素直にして自然な生き方をしてみよう。自分の置かれている状態に感謝して素直に生きて行ってみよう。「生かされている」と思えば素直な言葉が自然に出てくる。母の日を機会に、ここは成長した自分を素直な言葉で表現したい。「お母さんありがとう、これからもよろしくね」。



新入生宿泊研修での激励(4/16)

入学式（第64回生）

平成21年4月8日（水）、御書院の桜の花びらの舞い散る中、諫早高校第64回生（320名）の入学式が挙行されました。



新入生代表宣誓（渡辺総太 君）

校長祝辞（石部邦昭 校長）

新入生代表あいさつ（谷口真紀 さん）

応援のエール

校長式辞の中で、石部校長は新入生に対して、第1に「志を高く持って欲しい」ということ。第2に「初心忘れるべからず」ということ、第3に「出会いを大切にしたい」という3つの心構えを新入生に贈りました。

新入生宿泊研修（白木峰）



集団行動訓練



食事風景

期 日	4月14日（火）～16日（木）	2泊3日
場 所	国立諫早青少年自然の家	
目 的	「～真の諫高生になるために～」	
参加者	1学年生徒319名 教職員23名	

五家原岳登山



理数科対面式



理数科の活動内容を説明する3年生

4月17日（金）、1年～3年までの理数科全員（240名）で理数科新入生を歓迎する理数科対面式を実施しました。

遠足 (2年・3年)



2年生 (県立総合運動公園にて)



3年生 (干拓の里にて)



2年生

4月16日(木) 2年生は県立総合運動公園、3年生は干拓の里へ遠足に行きました。2年生は本明川の土手を下流に向かって歩き、クリーンセンターから半造川を上流へ向かって約1時間半かけて運動公園に到着しました。3年生は諫早小学校の前から半造橋を渡り、麦畑の中を約1時間半かけて歩きました。広々とした諫早平野にはうっすら赤みを帯びた白いハマダイコンが初夏を思わせる風に揺れ、赤いレンゲの咲き誇る畑にはミツバチも飛び回っていました。日頃の学業を一時忘れ、長縄跳びなどのレクリエーションで汗を流し、クラスの親睦も一層深めることができました。

世界陸上選手権ベルリン大会 選手激励会



思い続ける者が勝つ!

4月24日(金)、本校の卒業生である藤原新選手(H12卒)、藤永佳子選手(H12卒)、森岡紘一朗選手(H16卒)の3選手を招いて、本校体育館で全校生徒による激励会を実施しました。3選手は本校の陸上部出身で後輩達に「志を持ち続けることの大切さ」を熱く語ってくれました。また、現陸上部キャプテン松本拓也(3年)君が、全校生徒を代表して、世界陸上で活躍を祈念する応援のメッセージを3選手に贈りました。

全国で活躍する後輩達

第63回出雲陸上競技会(4/18・19)

会場 島根県浜山公園陸上競技場

招待高校男子 5000m

- (1組) 1位 松本拓也(14分54秒94)
- 2位 寺田夏生(15分09秒07)
- (2組) 1位 林慎吾(14分45秒37)

招待高校女子 3000m

- 1位 森智香子(9分40秒16)
- 7位 松本千尋(9分54秒00)

織田記念陸上大会(4/29)

会場 広島城公園陸上競技場

西日本 Jr 男子 5000m

- 12位 茅原祐也(14分48秒81)
- 15位 的野遼大(14分57秒73)
- 16位 松本拓也(14分58秒37)
- 21位 寺田夏生(15分12秒18)

西日本 Jr 女子 3000m

- 13位 森智香子(9分40秒47)
- 17位 松本千尋(9分43秒57)

日本ジュニアユース選手権(5/4・5)

会場 石川県西部緑地公園陸上競技場

ジュニア男子 1500m

- 1位 松本拓也(3分54秒70)

ジュニア女子 5000m

- 7位 松本千尋(17分09秒81)

ユース男子 3000m

- 2位 的野遼大(8分27秒74)

ユース女子 1500m

- 3位 森智香子(4分27秒32)

理数科講演会

テーマ：「21世紀の海洋開発『ひょっこりひょうたん島』の実現を目指して」
講師：長崎総合科学大学 工学部 船舶工学科 池上 国広 教授



講師の池上教授

質問する本校生徒

4月29日(水)、長崎総合科学大学の池上国広教授を講師にお招きして、理数科講演会を実施しました。21世紀の海洋開発というテーマで90分間講演していただきました。生徒からの活発な質問もあり、非常に有意義な講演会でした。

トピックス

ノーベル化学賞受賞者 下村博士 (本校卒) 来校 (3/19)



下村博士(左)と石部校長(右)

突然の訪問でした。

3月19日、本校卒業生(昭和20年卒業)で、ノーベル化学賞受賞者である下村脩博士が本校を訪問されました。下村博士は翌日の3月20日に長崎大学で実施される講演会に向かわれる途中の忙しいスケジュールの中、本校を訪問していただきました。下村博士は、「校舎は新しく変わりましたが、やはり母校は懐かしいですね。」と感想を述べられました。また、来年は本校で生徒のための講演会を開くことも約束していただきました。



博士からノーベル賞受賞記念のポスターが贈られました。

おもな学校行事

5月

- 5/7(木) PTA 評議員会
- 5/10(日) PTA 総会・(学年・学級)PTA 中間考査(～5/13)
- 5/28(木) 高総体開会式リハーサル(長崎)
- 5/30(土) 県高総文祭連合音楽会
- 5/31(日) 菖蒲忌

6月

- 6/5(金) 高総体総合開会式(長崎)
- 6/6(土) 高総体(～6/8(月))
- 6/13(土) 対外模試(3年)～6/14
ハイレベル実力(2年)
- 6/20(日) 県一斉模試(3年)
- 県一斉実力(1年・2年)
- 6/28(日) 第1回学校説明会(謙早文化会館)

7月

- 7/4(土) 同窓会総会(道具屋)
- 7/7(火) クラスマッチ(～7/8)
- 7/11(土) 対外模試(3年)～7/12
対外実力(1年・2年)
- 7/13(月) 理数科課題研究会(3年)
- 7/14(火) 三者面談(～7/16)
- 7/20(月) 夏季特別学習開始
学習合宿(1年)～7/24